

金魚の体

金魚はとても身近で、飼いやすいお魚です。

きちんとお世話をすれば10年以上生きることもあり、長生きだからこそ、元気で健康に育ててほしいですね。

正しくお世話をし、長寿をまっとうさせてあげましょう。

体の色

金魚は生まれた時はフナと同じ色をしており、生後2ヶ月くらいからだんだん赤などの色ではじめ、成長するにしたがって体色や模様が変化します。

皮フ

固いウロコに覆われていると思われがちですが、金魚の体表は実はデリケート。金魚は体表の粘膜で環境の変化から身体を守っています。

尾ビレ

いくつかのタイプがあり、金魚らしさを感じさせるポイント。大きく「フナ尾」と「開き尾」に分けられます。



おなか

金魚の消化器官は発達しておらず、胃がありません。その為、消化吸収の良いごはんを与える事が大切です。

体型

金魚の祖先であるフナに近い「和金型」、体が縮んで丸くなった「琉金型」、中間の「オランダ型」、背ビレがなく丸い体型の「ランチュウ型」に分けられます。

水槽の置き場所

室内

NG



強度の低い家具などの上や安定しない場所



直射日光が当たる場所



テレビの上



畳やじゅうたんの上

室内では

OK

水槽の置き場所は、水平が保たれる安定した平面(場所)を選びましょう。コケが生えないように直接日光が当たらない場所を選び、水換えや掃除などのメンテナンスがしやすい場所を選びましょう。

202311



金魚の飼い方

かわいい金魚と暮らそう!



金魚とは

日本国内では飼育しやすい中性付近の水質を好みます。

食性は草食寄りの雑食性なのでなんでも食べますが、消化器官が発達していないため、消化吸収の良い金魚用のごはんを与えることが大切です。



金魚の飼い方

水槽選びのポイント!

水槽の大きさによって飼える金魚の数が変わってきます。水槽が大きいくほど、金魚にとって快適な環境になります。飼育できる匹数はこちらをチェック!



フード

ごはんは、粒状、フレーク状などがあります。金魚の成長に合わせて1日2回(朝と夕方)位で5分以内で食べきれぬ量を与えましょう。



フィルター(ぶくぶく)

水槽の水をきれいにし、金魚にとって快適な環境を作ります。



エアープンプ

空気を送り出す機械です。水中の酸素の量は金魚の健康に大きく関係します。エアープンプとフィルター(ぶくぶく)をエアータブで繋げ、水中に取り込むようにしてください。



底砂

バクテリアの繁殖を促してくれるので、水質維持や水草を植えるためにも必要です。目安はSサイズ水槽で1~2kg、Mサイズ水槽で1.5~3kg、Lサイズ水槽で2~4kgです。



カルキ抜き

水道水に含まれている塩素を中和させるためのものです。金魚のためにも用意しておきましょう。



保温器具

寒くなると代謝が落ち、ごはんを食べる量が減ってしまうのでできれば用意しましょう。



照明器具

出来れば用意しましょう。生き物がより綺麗に見えるのはもちろん水草の育成をサポートします。



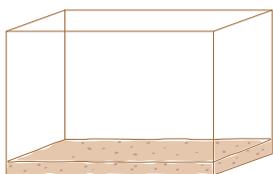
水草

金魚水槽に水草を入れると隠れ場所や癒しになるのでオススメです。生の水草はマツモ・アナカリス・カボンバが手に入りやすく金魚との相性もいいのでオススメです。



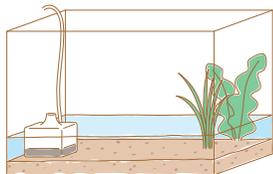
金魚をお迎えする準備

1



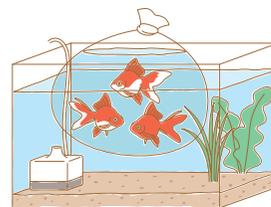
水槽台を設置する場所を決め、砂利を敷きます。砂利は事前にバケツ等の中で水洗いをしてから入れるようにしましょう。
※水洗いが不要の砂利もあります

2



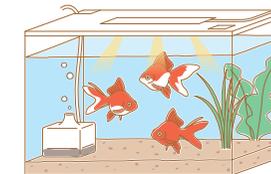
フィルターを中に入れ、置物や水草をお好みで入れてください。水を少し入れた方が水草を植えやすくなります。

3



バケツに水道水とカルキ抜きを入れた上で水槽内に注ぎ、ろ過フィルターの電源を入れます。金魚はビニール袋に入れたまま30分程浮かべておきます。

4



ビニール袋の口を少し開け、ビニール袋内と水槽内の水質を合わせます。30分程経ったら金魚を水槽内に放てば完成です。